

# 道でもなく 庭でもなく 建築でもない

～信楽の新たな産業  
を目指して～

ゆるゆる坂

窯場坂

ゆるゆる坂

飲食店

休憩所

住宅

職人横丁

ギャラリー

本屋

ステージ

塾

観光案内所

パン屋

図書館

飲食店

**登り窯工房**  
登り窯を修繕し、信楽の伝統を伝えるための展示体験などを行う。窯場坂と接しており、登り窯を構子が見れる位置にあるため観光客も多く来る。住宅から伸びる広場は子供たちの遊び場や、陶芸家たちの市場などが行える場所となっている。

職人たちが住む住宅群。私有地と共有地の境がない空間になっている。大きなロテーターは、職人が作業などを行うときに歩く人々が交流できるような空間になっている。職人たちが働いているときは、静かになり周りの騒音を楽しみながら散歩できるようになっている。

**うず商店**  
多くの商店がテラスを通して繋がっている。歩みながらお話をし、景色を楽しむことができる。独立した建物は、屋根の形状で一体感を出し、建築に合ったテラスがある。曲線的な形状によって視界の広化があり、人々との触れ合い機会も多く、地域全体での安全性にも繋がっている。

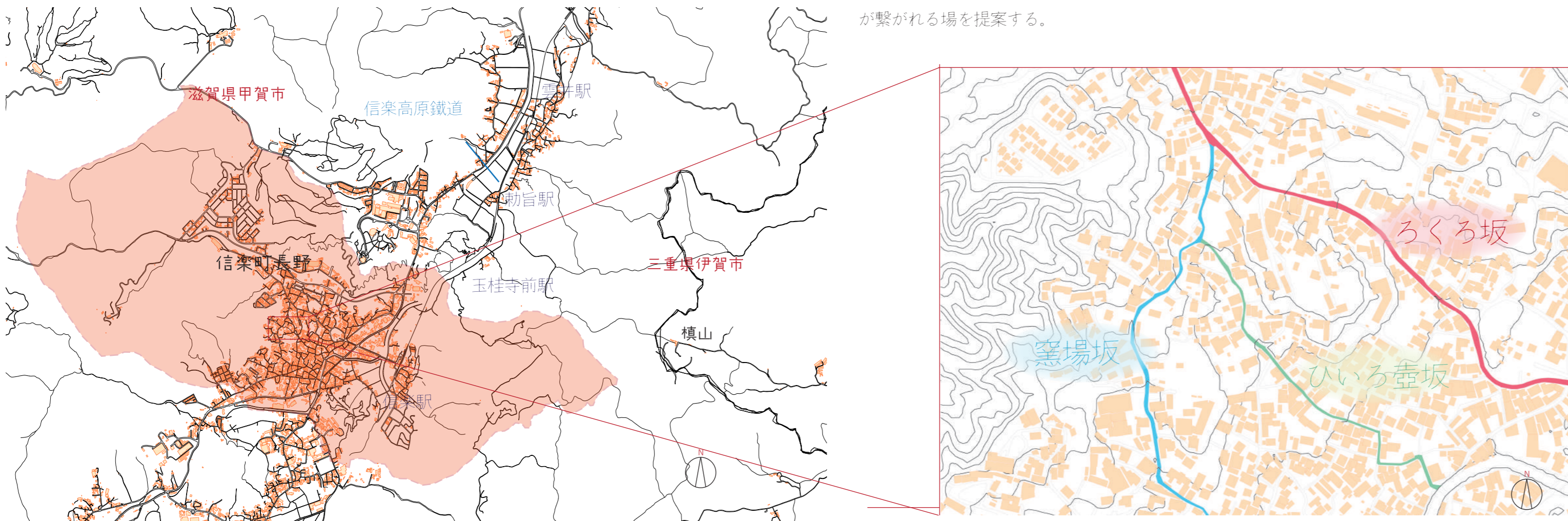
## 背景と目的

現代社会における伝統・街並みへの見方は変化し、歴史的価値を後世へ残すことが重要となっている。しかし、後継者の減少によって途絶えてしまう危機がある。また近代化が進んだ現代では、コミュニティが減少したことにより、昔ながらの人と人の付き合いが無くなりつつある。そこで、私有地と共有地の境をなくし、住民同士のコミュニティを増加させ、さらには観光客をも巻き込み、信楽ならではの地域の特徴に触れ合ってもらえるような「道庭建築」を提案する。



# 01 計画敷地

滋賀県甲賀市信楽町長野には多くの窯元があり、日本六古窯のひとつである「信楽焼」が有名な町である。古琵琶湖と呼ばれる地層から取れる土質は焼き物に適しており、人間味あふれる柔らかく暖かな焼き色を見せる特徴がある。小盆地という地形を活かした「登り窯」の開発と共に、多くの陶芸品を生産してきた。



現在、町の取り組みとして3つの散策路がある。この道には窯元が多く集まっており、観光客が歩きながら工芸に触れてもらうことを目的としている。しかし、散策路同士の繋がりが道幅の狭さから、横への通り抜けなどがしにくい問題がある。そこで、散策路同士のつながりによって、観光客の移動のしやすさや、職人同士が繋がる場を提案する。

# 02 現状

信楽町は職人の高齢化により、職人の人口減少が問題となっている。若い世代の定住率も良くない。そこで、計画敷地を中心とした周辺を、生活行為ごとに分類し、生活領域を整理した。工房周辺は付き合い（体験所や工房）が多くある。しかし、その他の項目は当てはまっていない。また集まる場所は設けられているが、工房を稼働しているかどうか分かりにくいことや、人通りの少なさによって活かされていない。生活行為における、大半が徒歩60分圏内に存在することが、住居者の少なさや、若者離れを加速させていると想定される。そこで、一極集中型の施設による生活の充実性を上げるのではなく、生活領域の分散を行った、建築のあり方を提案する。

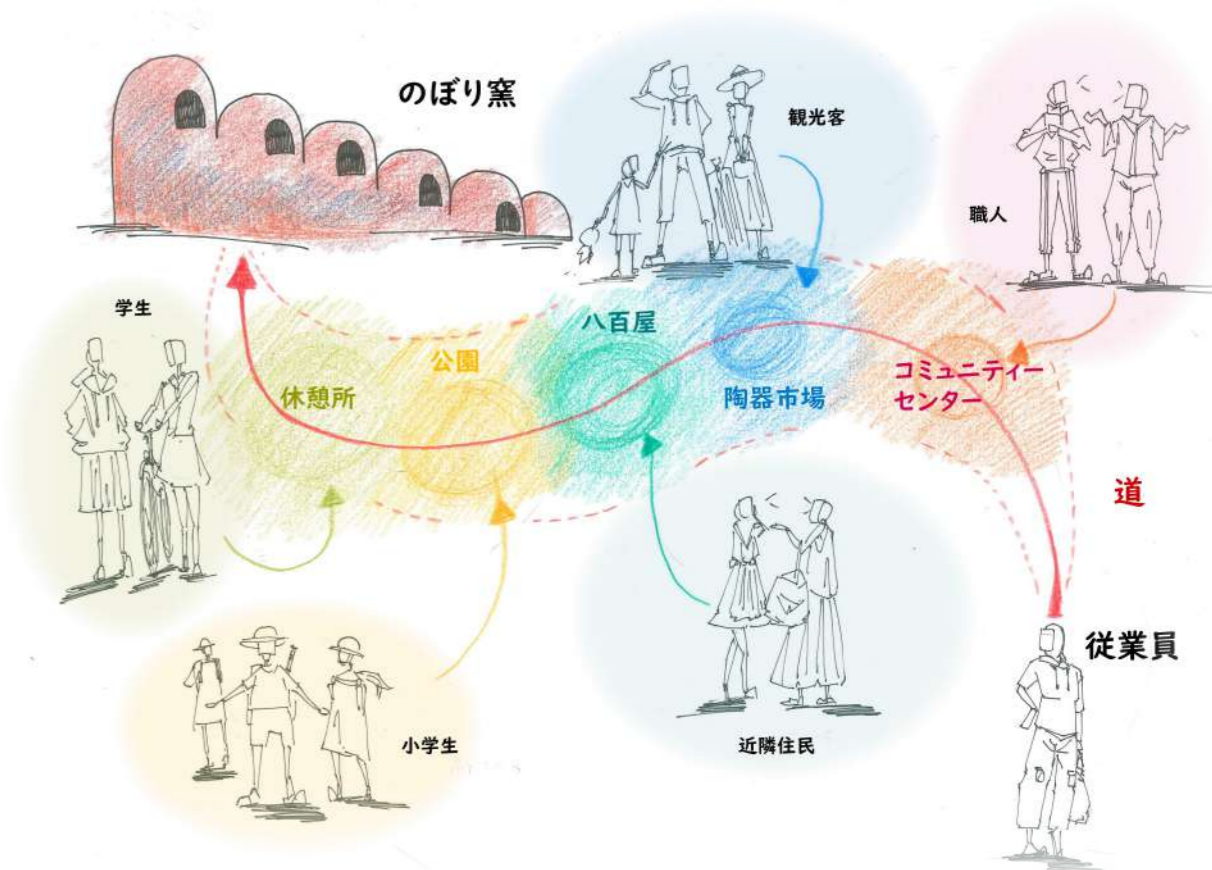
信楽町の生活行為と領域

	登り窯工房 徒歩10分圏	のぼり窯カフェ 徒歩20分圏	信楽駅 徒歩30分圏	小学校 徒歩60分圏	貴生川駅 公共機関120分圏
付き合い	●	●	●	●	●
買い物			●	●	●
娯楽・余暇	●		●	●	●
医療・美容		●	●	●	●
教育・教養			●	●	●

←上：生活行為と領域

# 03 コンセプトA

信楽で働く従業員たちの職人への道に様々なプランを合わせることで、信楽町全体の活性化を行う。職人同士の交流は、工芸体験や講演会などのイベント行事に限定されるため、職人が多く暮らしているが、町中での交流は少ない。そこで、職場から職人の住宅までの道を計画し、職人の通勤時間や休憩時間、帰宅時間も職人たちが町中でも見かけられるようにする。

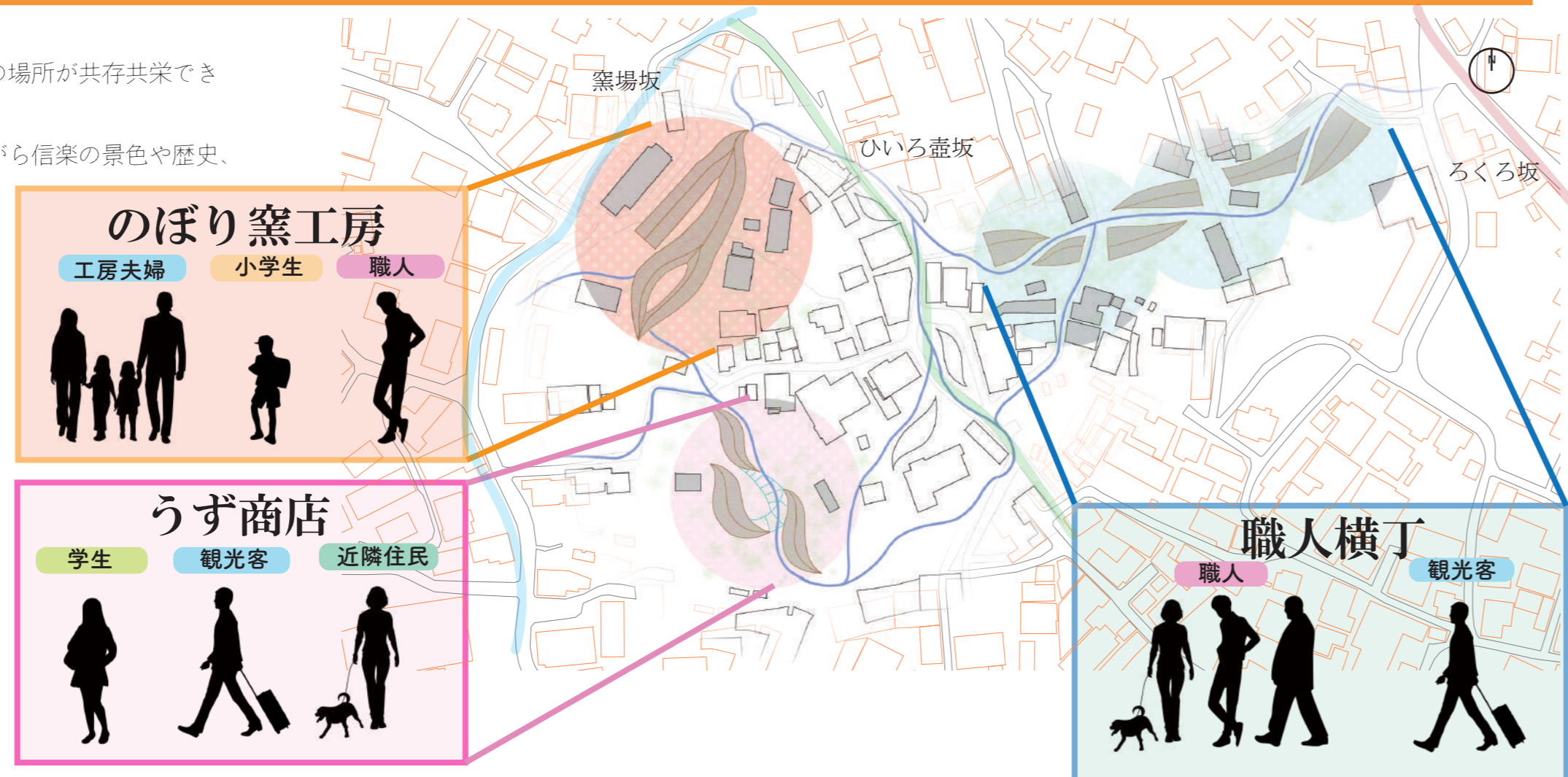


# 04 コンセプトB

建築の形を描ることで建築が町になじみ、それぞれの場所が共存共栄できるきっかけになる。順路をつくることで訪れる人たちが、建築をめぐるながら信楽の景色や歴史、伝統に触れる事ができる。

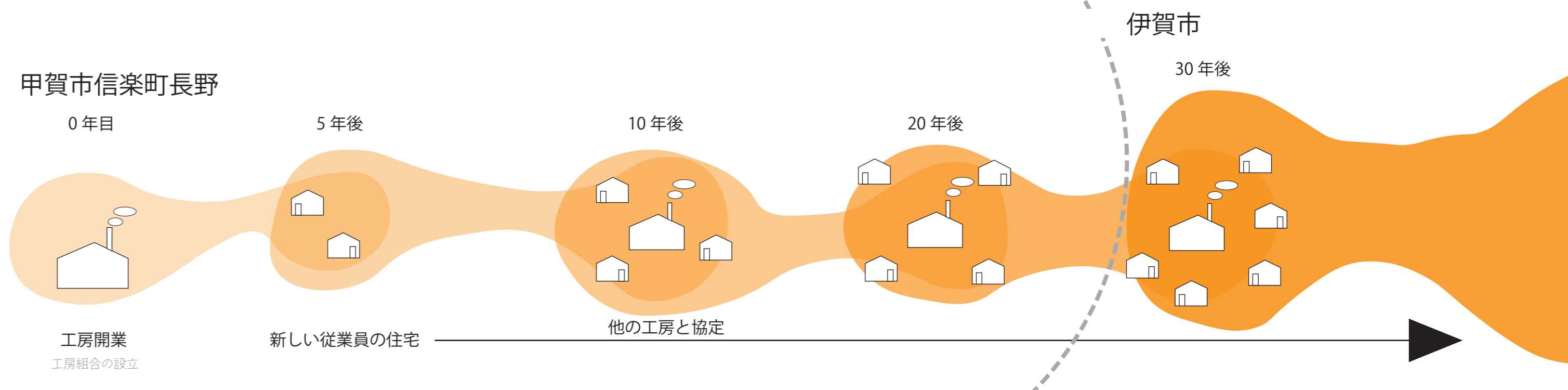
## 職人の道

「職人の道」は一般的な道路と違った道となっている。道路と別けることで人の密集度が分散され、通り抜けや静かな道の選択ができる。職人の道は、建築や地形に合わせて流れを感じるようになっている。



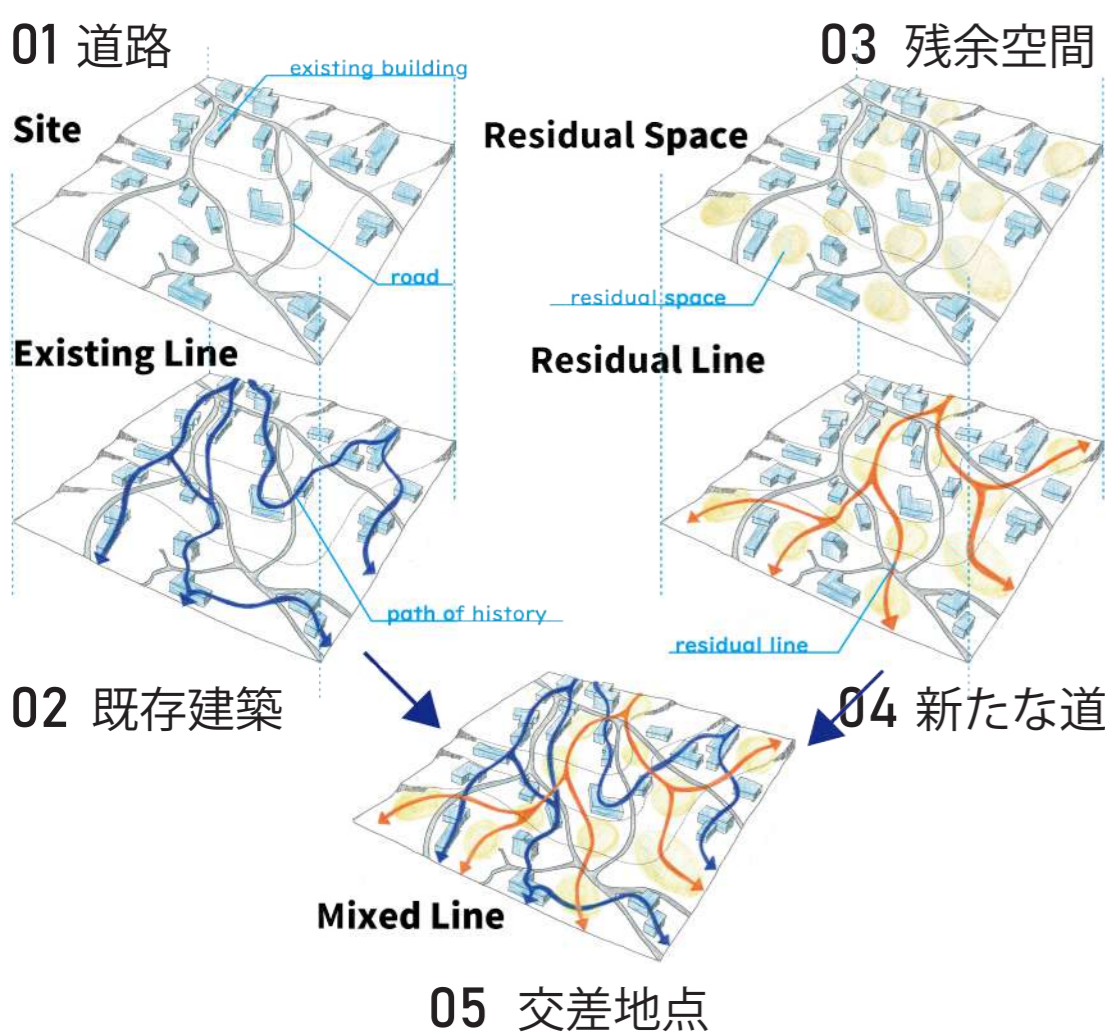
# 05 プログラムa

登り窯工房は、個人業に比べて多くの従業員が必要になってくる。登り窯の稼働率を上げると同時に新規従業員を増やし住宅と工房を繋げる道を計画していく。年々、従業員を増やしていくことで、信楽町長野全体に道がつながり、他の地域にも道が広がっていくため、そのつながりが大きな工房組合に成長していき、職人の技術を継承してすることができる。



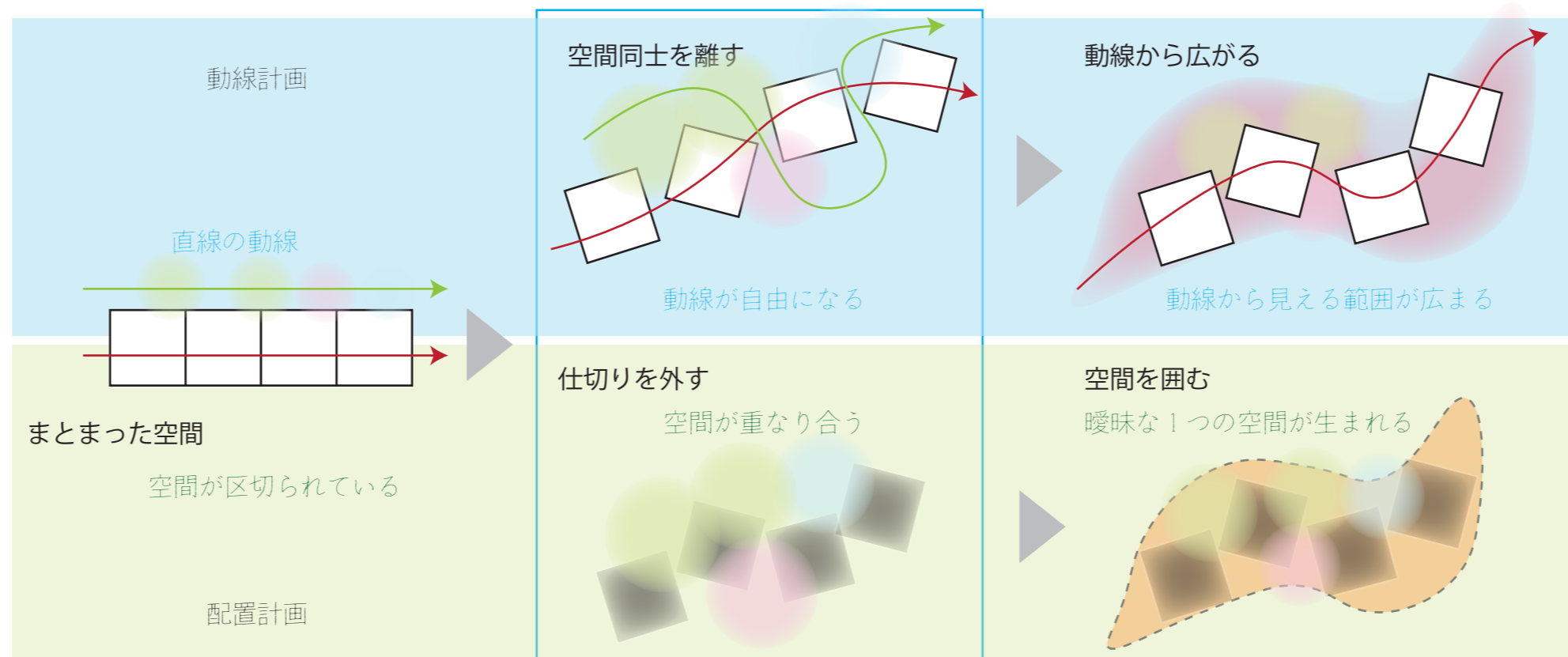
# 06 プログラムb

敷地を道路・既存建築・残余空間といった3つのレイヤーを合わせることで人の集合地点を見つけると同時に、従業員の工房までの道を考えた。主に、残余空間に建築を作っていくが、建築同士の繋がりを3つのレイヤーの重なり合う地点に新しい道を通すことで、地域住民とも繋がりが生まれるように考えた。



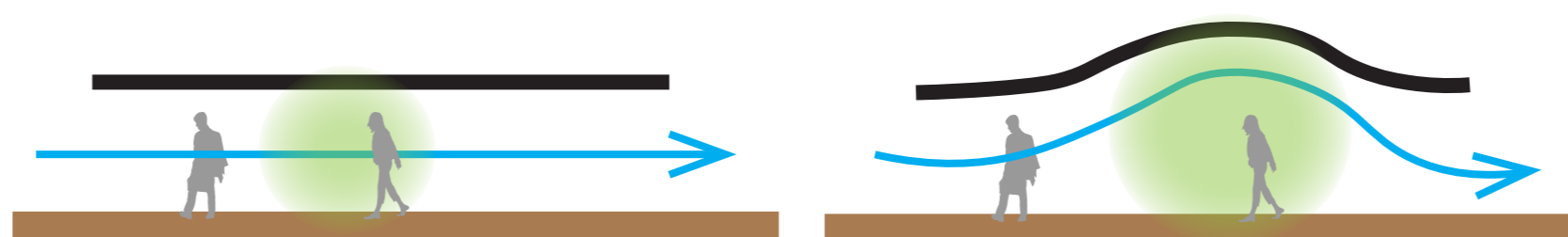
# 07 プログラムc

曲線を用いた建築では、様々な要素と要素とが混ざりあうことができる。動線計画では、動線が伸びることで信楽の景色と添わせることができ、建築自体も景色になじむことができる。配置計画では、空間同士が混ざりあうように間仕切り壁を減らし、一つのまとまった空間を作り、全体としての場所性を感じやすい環境にしている。



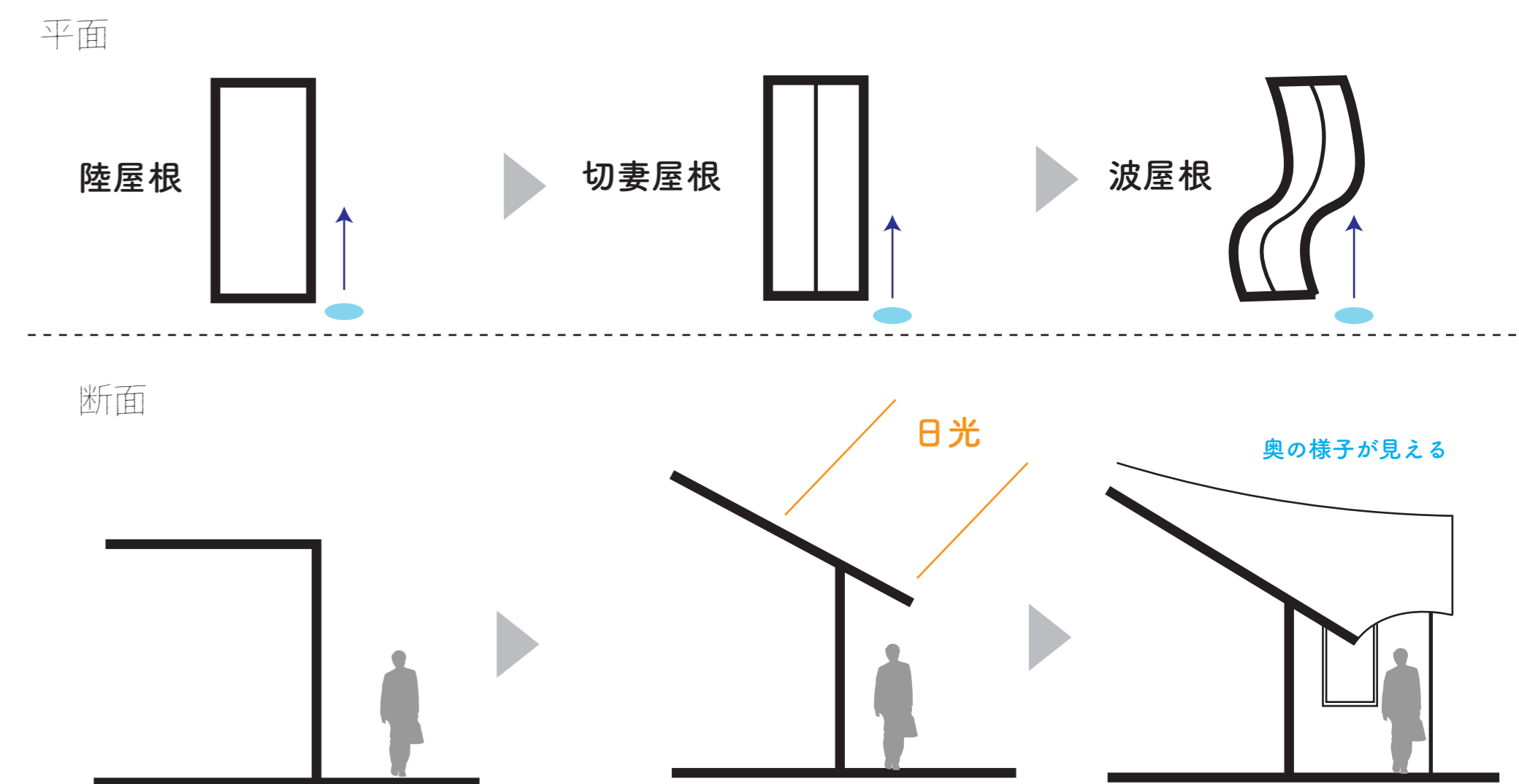
# 08 プログラムd

棟木の高さに変化を与えることで、風の流れや視線に変化が生まれる。内部空間の高さが変化することで空間を広く感じることができる。



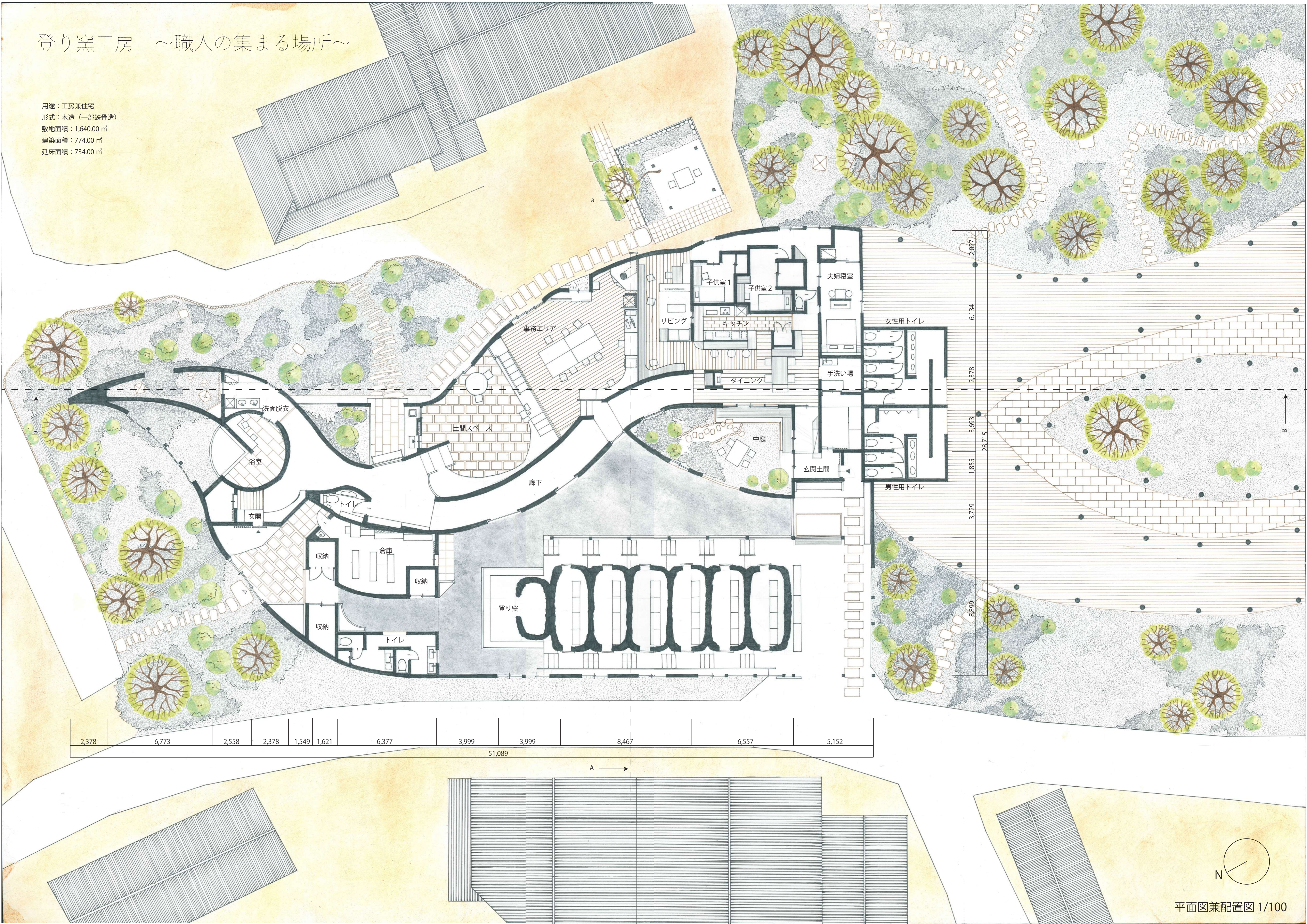
# 09 プログラムe

屋根を曲線に掛けることで建物の側面が見えやすくなる。そして、開口部があることで外から内部の様子が見えやすくなり、外と内の繋がる場が増える。



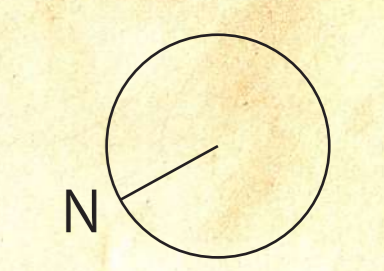
# 登り窯工房 ~職人の集まる場所~

用途：工房兼住宅  
 形式：木造（一部鉄骨造）  
 敷地面積：1,640.00㎡  
 建築面積：774.00㎡  
 延床面積：734.00㎡



2,378	6,773	2,558	2,378	1,549	1,621	6,377	3,999	3,999	8,467	6,557	5,152
51,089											

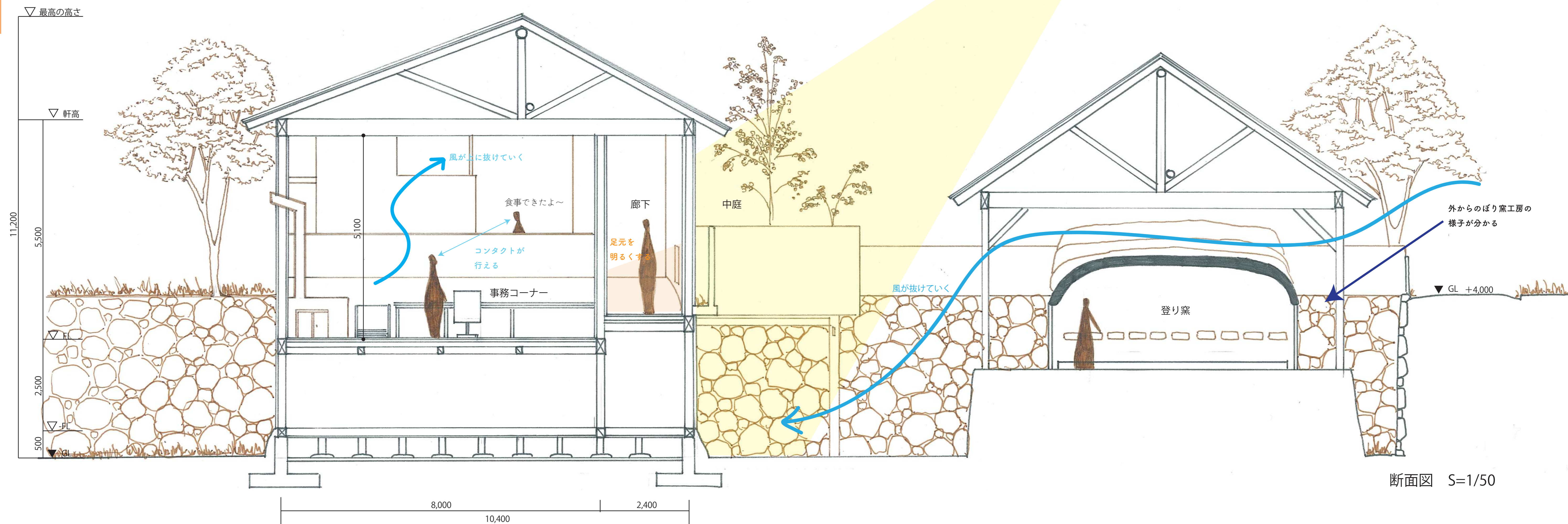
2,027	6,134	2,378	3,693	1,855	3,729	8,896
28,715						



A

# 登り窯工房 ProposalA

## 職人の集まる場所



断面図 S=1/50

A

# 登り窯工房 ProposalB

### 地形に合わせた屋根

信楽の緑の豊かさを残すため、山と建築の一体化を行った。

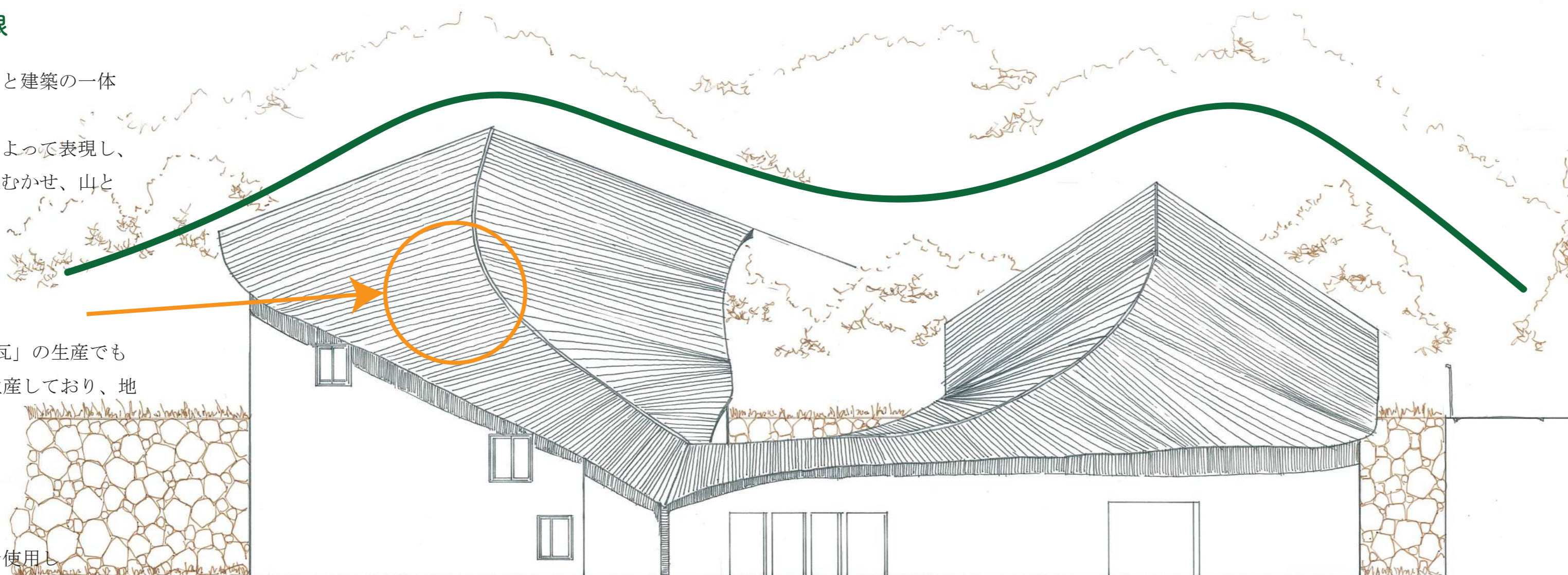
山の緩やかな稜線を大きな屋根によって表現し、くねらせた屋根は視線を自然と上にむかせ、山とのつながりを感じるようになる。

### 信楽の瓦

信楽では、「たぬき」のほかに「瓦」の生産でも有名である。登り窯では瓦を大量生産しており、地元への貢献につながる。

### 信楽焼のタイル

信楽焼の色味をいかしたタイルを使用し、観光客が色味を感じやすく、良さをしてもらおう。



北側図立面 S=1/100

A

# 登り窯工房 ProposalC

### ルーバーによる採光

玄関に差し込む光は、ルーバーによって木漏れ日のような光が差し込む。ベンチからの視線をさける役割がある。

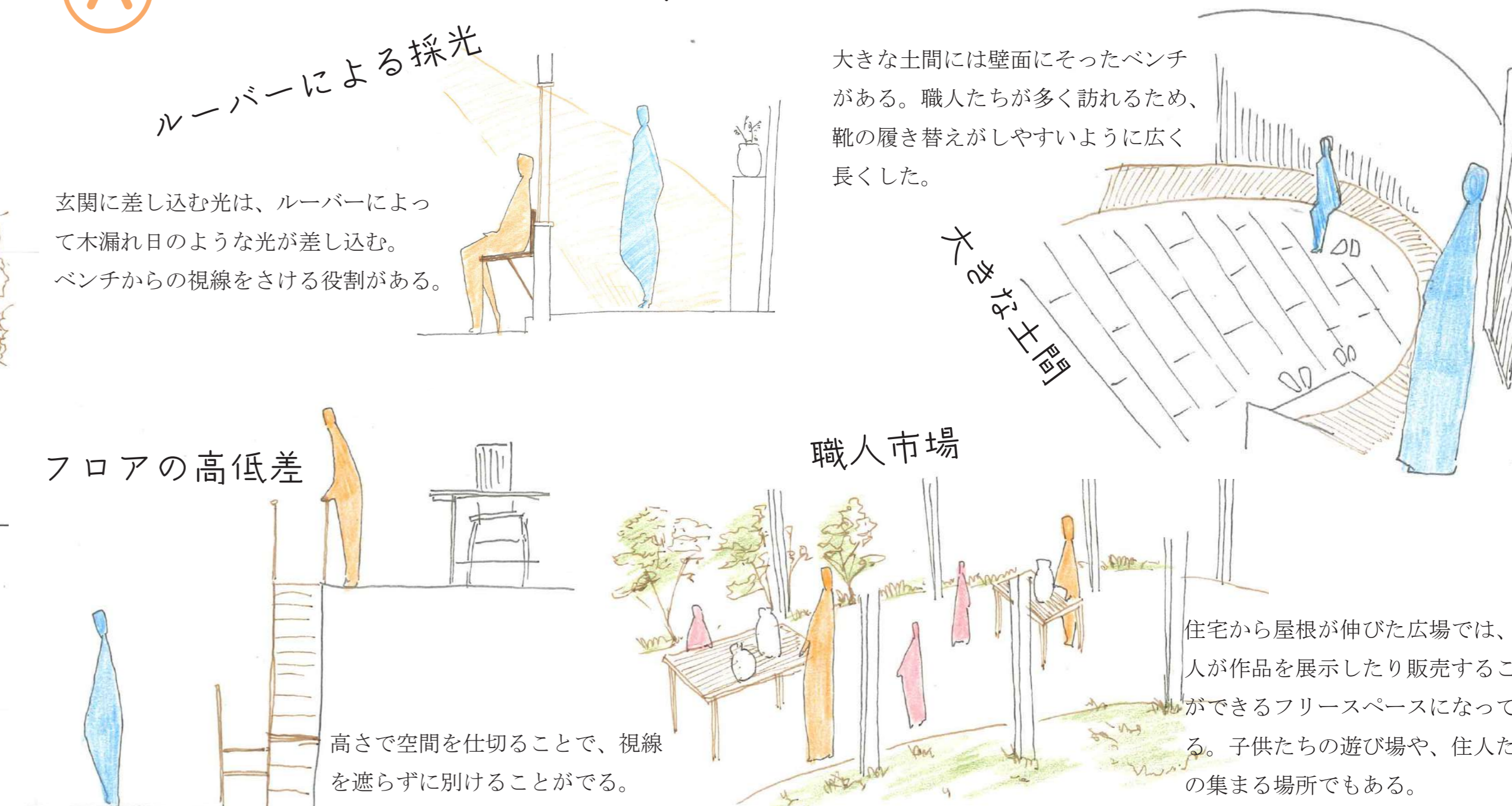
大きな土間には壁面にそったベンチがある。職人たちが多く訪れるため、靴の履き替えがしやすいように広く長くした。

### フロアの高低差

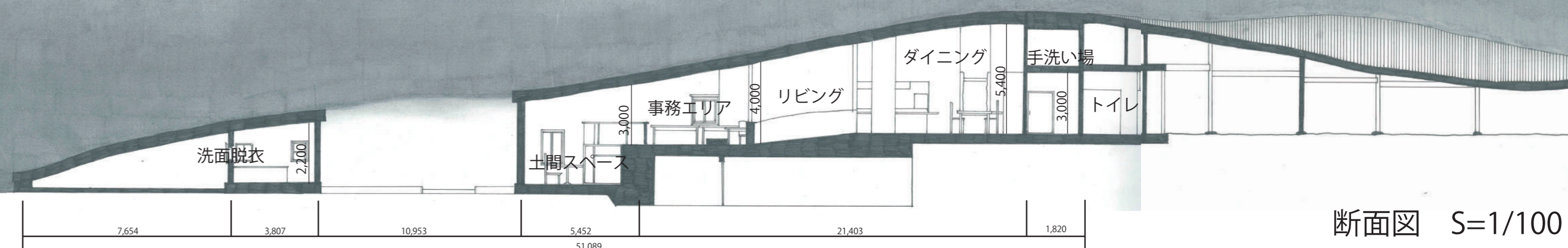
高さで空間を仕切ること、視線を遮らずに別けることができる。

### 職人市場

住宅から屋根が伸びた広場では、職人が作品を展示したり販売することができるフリースペースになっている。子供たちの遊び場や、住人たちの集まる場所でもある。



西側立面図 S=1/100



断面図 S=1/100

渦巻く建築  
～衣・食・住の集まり～



用途：店舗  
形式：木造（一部鉄骨造）  
敷地面積：375.00㎡  
建築面積：302.00㎡  
延床面積：298.00㎡

用途：店舗  
形式：木造（一部鉄骨造）  
敷地面積：287.00㎡  
建築面積：95.66㎡  
延床面積：92.00㎡

用途：銭湯  
形式：木造（一部鉄骨造）  
敷地面積：394.00㎡  
建築面積：197.00㎡  
延床面積：194.00㎡

平面図兼配置図 1/100

B うず商店 PloposalA 景色を見て歩く

**ショーケース**

曲線になったカウンターには、マネキンをおくことができるようにした。曲線にそって配置することで、視線に入りやすくすることができる。

**服が並ぶ**

上部に並ぶ服は柱同士をカーテンレールで結び、服をつるしている。宙に浮かす演出によって、デッキを歩く人からも目に入るようにしている。服が間仕切りの役割を持ち、服の種類ごとに別けている。服が動くことで、別けられた空間は曖昧になり、空間の大きさが変化する。

**憩いの場所**

うず商店は長いデッキを通して繋がっているため、歩いてきた客が休める場所になっている。陶芸の野外展示やワークショップなどができる場所であり、地域の人と観光客がコミュニティを盛んに行う。

**吸い込まれる**

デッキは建物にそっているため、建物をみながら歩くことができる。曲がったデッキは奥が見えそうで見えない状態を作り出し、歩くと引き込む役割がある。信楽のうねる道とあわせることで、道からデッキへの変化にグラデーションがかかるようにした。

**茶室**

喫茶店に付属する茶室であり、和を感じる場所になっている。信楽には外国人の観光客もくるため、日本学習として計画した。茶室への露地はイロハモミジを植え、季節の変化を楽しめるようにしている。

**曲がる家具**

曲線を重視したオリジナル棚。曲がったことで、多方向から商品を見ることができ、棚の形状にそって商品を探すため、自然と奥に吸い込まれてしまう。

**建物がつながる**

建物をつなぐ鉄骨屋根は、分棟になった建築どうしを結び、建築を一体的に感じることができる。藤棚や、ブドウなどを育てることもでき、緑化することで夏場の日差しを遮る役割がある。

**自然と一体化した露天風呂**

銭湯にある露天風呂には塀があり、植栽を植えることで塀の圧迫感をなくし、広々とした空間にした。奥に山が見えるため大きな自然とつながる一つの景色になるようにした。

B うず商店 PloposalB

屋根の高さに変化があることで、信楽の山の景色を崩さない。

**風の流れ**

風が屋根をのぼって行く。

断面図 1 1/100

断面図 2 1/100

最高の高さ  
軒高  
GL

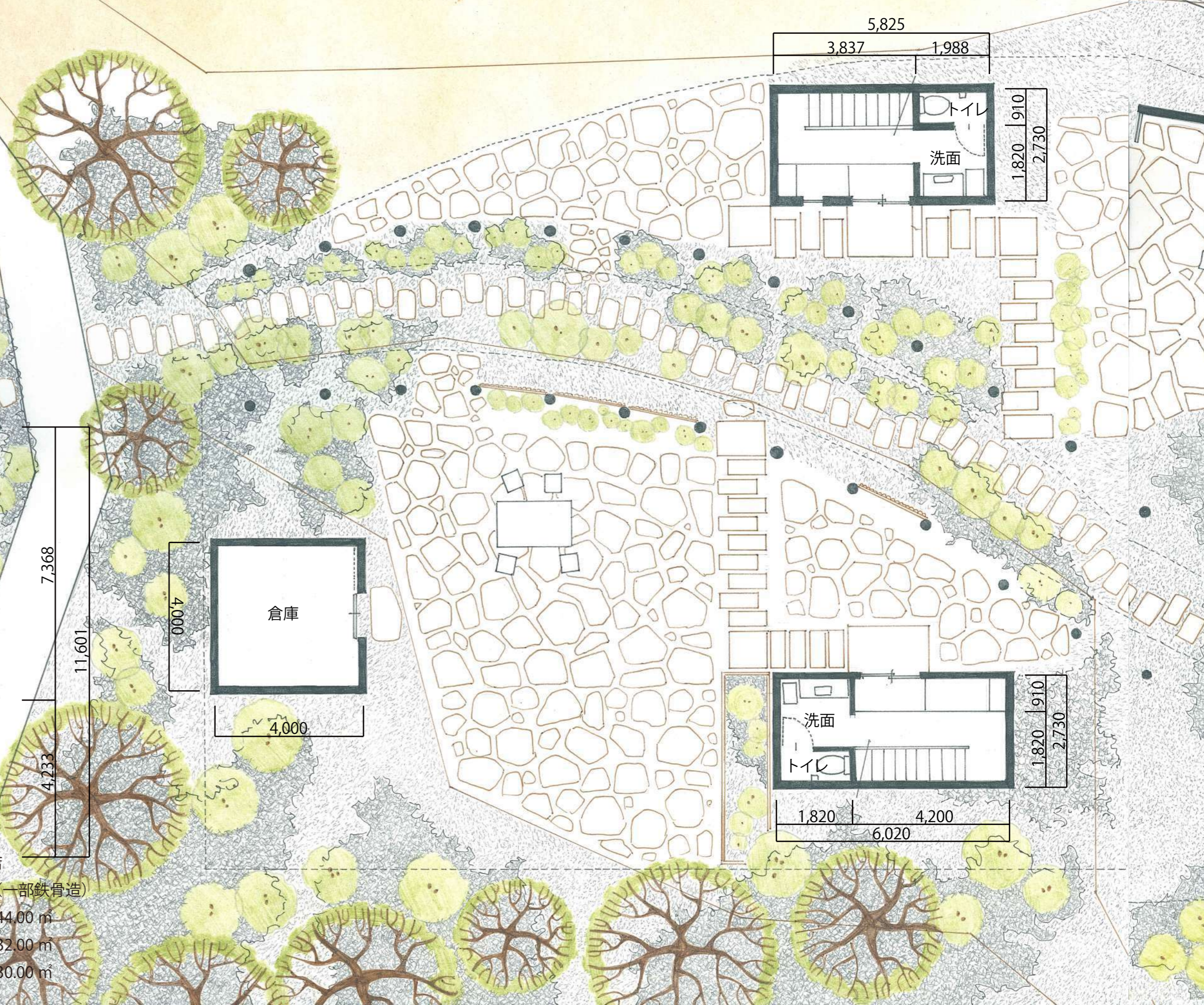
更衣室 服売り場 0083 0083 テラス エントランス

職人横丁 ～職人の帰る場所～

用途：住宅  
 形式：木造（一部鉄骨造）  
 敷地面積：247.00 m<sup>2</sup>  
 建築面積：247.00 m<sup>2</sup>  
 延床面積：230.00 m<sup>2</sup>



用途：飲食店  
 形式：木造（一部鉄骨造）  
 敷地面積：144.00 m<sup>2</sup>  
 建築面積：132.00 m<sup>2</sup>  
 延床面積：130.00 m<sup>2</sup>





用途：住宅  
 形式：木造（一部鉄骨造）  
 敷地面積：380.00 m<sup>2</sup>  
 建築面積：216.00 m<sup>2</sup>  
 延床面積：212.00 m<sup>2</sup>

6,593 4,260 3,603 3,161 3,189  
 20,806

